



三和中央病院

医療法人 清潮会 三和中央病院 広報誌

2009年12月発行 No.4

POCO a POCO

(ポコ・ア・ポコ)

発行人：塚崎 稔 発行所：長崎県長崎市布巻町165-1

TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588

<http://www.sanwa.or.jp>

印刷：昭英印刷株式会社 長崎市平野町13-13 TEL 095-844-0231

POCO a POCO (ポコ・ア・ポコ) とは…

ポコ・ア・ポコとは少しずつという意味があり、何事も少しずつ、徐々に良くなっていければなどの思いを込めてみました。

基本理念 安心できる、こころ温まる医療



●基本方針

1. 私たちは誠実で親切な心をもって医療に従事します。
2. 私たちは人権を尊重した良質な医療を提供します。
3. 私たちは地域精神医療と地域ケアを実践していきます。

<目次> CONTENTS

- P1・・・内観学会開催のお知らせ
- P2・・・べてるの家交流会・コラム①岩田副院長
- P3・・・新任医師紹介・柴田先生銅メダル！・コラム②松本副院長
- P4・・・部署紹介（医療社会福祉部）・秋まつり・防災訓練



お知らせ

第33回 日本内観学会長崎大会

が来年6月に下記の予定で長崎において開催されます。

日時：2010年6月25日(金)～27日(日)

会場：長崎ブリックホール（長崎市茂里町2-38）

主催：日本内観学会

大会テーマ：「こころの平和を求めて」

大会長：塚崎 稔（三和中央病院）

事務局：三和中央病院（馬場 博）

〒851-0409 長崎市布巻町165-1

TEL 095-898-7511 FAX 095-898-7588 E-mail info@sanwa.or.jp



*大会に関するご質問、お問合せ等ございましたら、三和中央病院大会事務局までご連絡下さい。

べてるの家 交流会

11月3日に当院において「べてるの家交流会」を開催しました。数多くの参加者の方々に来て頂きありがとうございました。

日赤浦河赤十字病院診療部長、川村敏明先生を講師としてお迎えし「問題だらけからの出発」と題して講演をして頂きました。べてるの家の成り立ちや活動内容、医師としての関わり等の興味深いお話を拝聴させて頂きました。またべてるの家の当事者の方々の貴重な体験談発表や質疑応答では多くの質問があり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

川村先生や当事者の皆様方、遠いところ当院へお越しいただきどうもありがとうございました。



当事者の方々の発表



川村敏明先生



質疑応答



参加者の方々

べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人浦河べてるの家、有限会社福祉ショップべてるなどの活動があり、総体として「べてる」と呼ばれています。そこで暮らす当事者達にとっては、生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を有しており、100名以上の当事者が地域で暮らしています。(べてるの家ホームページより)

Column (コラム) ①

『役に立つ読書』



三和中央病院副院長 岩田 信之

『自分の周囲の素晴らしい人達との交際』だけで満足してはいけません。ドンドン、**未知の世界の人達との交流**を自ら開拓しなくてはなりません。更には、日本に留まらず、世界の人達との交流が必要です。直接会わなくても、いろいろな手段があります。更には、現在の**東西**の人に限らず、**古今**の人達とも、交流が必要です。過去との交流法は、**映像媒体**ではたかだか100年以内が限界です。よって**書物**は必須のアイテムです。多感な10代の読書ではないので、**真の教養**はつきませんが、多くの違った意見・考え方を**読書**は教えてくれます。読書の幅は、無限に近く、厚いのです。

中学・高校の授業や、定期試験中に**読んだ小説**から、幾多の教訓を得ました。**読んだのは学生時代**ですが、**教訓**となったのは**大人**になってからです。それは、必ずしも、小説の本題ではないのでしょうか。深遠ではありませんが、日常業務に役立つであろう**短編**を御紹介します。

ピアスの短編集『壁を叩く音』→真に好きな女性には、心を奪われているからこそ、若い時には、妙に素直になれず、意地を張り、一生の禍根を残す事がありうる。**漱石の『心』**→若い私は何も知らずに、先生に心の傷を聞きたがる。それがどのような内容かも知らずに…。**龍之介の『鼻』**→高校3年の授業で、国語の先生は『傍観者の利己主義』と言われた。和田アキ子のローヒールの靴を見るたびに『鼻』を思い出す。豪傑アッコも高過ぎる身長を気にしているのかと…。**龍之介の『蜜柑』**→子供がレストランで走り廻るのを見ながら、時として、この短編を思い出すようにしている。**龍之介の『嵐』**→皆が嫌がる病院当直。状況がちよっと変わると、希望者どうして奪い合い。**菊池寛の『形』**→自分が築いた病棟。とっくの昔に、自分の手を離れていた…。**菊池寛の『出世』**→嫌味な意固地親父も、ちょっとした出世で人が変わる。意固地は彼の全てではなかった。**井上靖の『天平の壺』**→コピー機で大量にコピーをする度に、写経に生涯を捧げた留学僧に思いを馳せる。そして、もう一人は鑑真和尚。仏教の布教のため、御自ら渡日した最高權威の学僧。現代風に置き換えると、大学教授が、対馬の病院から派遣の依頼を受け、教室員に希望を募り、誰も応募者がいないので、『では、私が行きましょう』。**中島 敦の『山月記』**→天才の孤高から、凡人との競争に背おけて…。

新任医師紹介



宿輪 千恵子

精神科医
趣味：ペットの世話

<ひとこと>
先日大きな鹿を見てびっくりしました。今後ともよろしくお願い致します。



小川 弘

精神科指定医
趣味：舟を見ること、馬を見ること。

<ひとこと>
病院が大きく医局から病棟まで遠いのでいい運動になってます。

おめでとうございませう

今年の9月に開催された2009年国際ゴールドマスター京都スイミング大会において当院の柴田龍郎先生が出席し見事銅メダルを獲得！！世界第3位！

The International Gold Masters 2009, Kyoto Swimming

September 4-6, 2009 Kyoto, Japan



柴田龍郎先生

Column (コラム) ②

『レベル6』

三和中央病院副院長 松本 喜代隆

もちろん仕事の内容によりますが、精神科の仕事にどのような姿勢で取り組んでいますか？と問われたら、「アバウトにやっています」と答えるのがいいかな、と思っています。「アバウト」とは「だいたい」とか「適当に」といった意味ですから、こう答えると何かいいかげんにやっているような響きがありますよね。でも、もう少し詳しく「慎重にアバウトにやっています」となるとどうでしょう。え？どうということ？と、少し興味が湧いてきませんか？

医学とか科学の世界は、ごまかしのない緻密さが前提です。ひとつひとつ丁寧に仕事をすすめなければ信頼も結果も得られません。ちょうど、1ピースでもアバウトにはめると決して完成しないジグソーパズルのようなものです。

しかし、あらかじめ決定された正しい位置に配置していくという緻密な方法では、いくつかのピースが無くなったり、入れ替わっていたり、変形していたりするジグソーパズルは、何回挑戦しても完成するはずがありません。こういう場合、完成のためには、発想の転換が必要です。

たとえば、ひとつひとつをきちきちと配置することで完成させるというやり方をやめて、全部のピースを、慎重にアバウトに、だーいたいのところで配置するというやり方に転換してみることでしょうか。そうすることで、ある絵柄が浮かび上がり、ジグソーパズルは完成することになりますよね。時には思いきってさらに多くのピースを取り去って配置した方が、より鮮やかな絵になるかもしれません。

この場合のアバウトさはただのアバウトさではないのです。アバウトさの持つ楽観性や可能性、到達力を信じて、慎重に選ばれた方法論なのです。完成のためにはアバウトさが、アバウトさこそが必要なことがあるのだ、と言ってもいいかもしれません。アバウトさが助けてくれるのです。

あーでもないこーでもないと、あなたも私も協力してピースを配置していると、思ってもいなかった絵柄が現れ、あーこれはいい絵だよねーと喜びあえるといいな、そういう仕事をしたいな、としみじみ思います。

アバウトさは言葉を換えて言うと、60点、レベル6ということです。完成度を上げて100点をめざす道と、慎重にアバウトに60点をめざす道は、目指すゴールのイメージこそ違いますが、それぞれのゴールに到達するためには、ともに慎重さ、緻密さを必要とします。最低合格ラインの60点をなんとかとろうと考えるのではなく、「レベル6であることが素晴らしい」と考えたときに道が開ける、ということが精神科の仕事においてはけっこう多いように思います。いわば、前向きなレベル6です。おすすめですよ。

あ、ちなみに、「慎重にアバウトにやっていますよね」と10年以上も前に、精神科医の仕事を評したのは、当院の岩田副院長でした。

部署紹介



【医療社会福祉部】

医療社会福祉部は医療社会福祉室、地域連携室、診療情報管理室で形成されており、精神障害者の抱える社会問題、生活問題の解決のための援助、支援活動をおこなっています。

他部署や地域の諸機関と連携し退院促進、再燃予防等の業務を行っています。精神保健福祉士8名、地域連携支援員2名、システム情報管理員1名の計11名です。

医療社会福祉室

受診、入院の受付相談業務、日常生活問題、経済的問題、住宅問題などいろいろな問題を抱える方々の援助や退院促進などを行うことにより、地域で安心できる生活、医療全般を目指しています。

地域連携室

地域の保健・医療・福祉などとの連携・協力し、地域で安心して生活ができるように、又退院後の地域で生活していくなかで、心配、不安などの相談業務や地域に対し情報の発信、受信し地域活動への取組みを行っています。

診療情報管理室

診療に関する情報を収集し統計資料作成・分析を行い、よりよい情報を確保することにより支援、援助の際にすばやく、迅速な対応ができるように務めています。



秋まつり

10月24日



みんなで歌ったり、踊ったりと楽しい一日を過ごしました。(*^▽^*)

防災訓練

11月11日



地震及び火災を想定した総合防災訓練を実施しました。長崎市南消防署の方々にも協力いただきありがとうございました。



医療法人 清潮会 三和中央病院

診療科目：精神科・心療内科・内科・歯科

〒851-0494 長崎県長崎市布巻町165-1

TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588

E-mail : info@sanwa.or.jp